

授業概要

本講義では、人間の「こころ」の仕組みを明らかにするための方法論について解説する。講師から解説するだけでなく、受講者自身にも実際に手を動かしてもらいながら、実験や調査の方法を体得してもらうことを目指す。卒業研究などで心理学的なアプローチから研究をしてみたい人や、心理学の研究法に興味のある人の受講を歓迎する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	心理学研究法の概説
第 3 回	演習① 知覚の実験：問題と目的・方法の確認
第 4 回	演習① 知覚の実験：実験の実施
第 5 回	演習① 知覚の実験：データの分析と考察
第 6 回	演習② 記憶の実験：問題と目的・方法の確認
第 7 回	演習② 記憶の実験：実験の実施
第 8 回	演習② 記憶の実験：データの分析と考察
第 9 回	演習③ 社会性の実験：問題と目的・方法の確認
第 10 回	演習③ 社会性の実験：実験の実施
第 11 回	演習③ 社会性の実験：データの分析と考察
第 12 回	演習④ 質問紙調査：問題と目的・方法の確認
第 13 回	演習④ 質問紙調査：調査の実施
第 14 回	演習④ 質問紙調査：データの分析と考察
第 15 回	まとめと振り返り
第 16 回	筆記試験

※受講生の興味関心や進度に応じて、一部変更する場合があります。

到達目標

- ・心理学研究がどのような方法で行われているのかを理解する。
- ・心理学の研究法に則して実験や調査の追試を行い、データを適切に分析・解釈できるようになる。

履修上の注意

授業中は、講師からの説明だけでなく、受講者同士での話し合いや活動の機会を多く設ける。他の受講生とも協力しながら、主体的に授業に参加することを求める。また、コンピュータを用いて分析するため、情報機器の操作に慣れていることが望ましい。

予習・復習

予習：指定した教材に目を通し、疑問点やもっとよく知りたい点を考えておくこと。
復習：授業で学習した内容について、分かった点やまだよく分からない点をまとめておくこと。
(予習や復習を通じて出てきた疑問点については、授業内でフィードバックを行う)

評価方法

学期末試験 50%、授業内レポート 40%、受講態度 10%
※新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、学期末試験をレポートに変更する可能性もある。

テキスト

教科書は特に指定せず、毎回の授業時に適宜教材を配布する。

参考書：

『よくわかる心理学実験実習』村上香奈・山崎浩一 ミネルヴァ書房